

TUVALU

ツバルガイドブック



刊行にあたって

本資料は太平洋諸島センターの活動対象となっている太平洋島嶼国14カ国のうち、ツバルに関する観光情報を詳しく取りまとめたものです。また、同国をできるだけ広く理解していただくために、観光情報以外にも歴史、産業、社会等についても簡潔に紹介いたしました。

本資料で取り上げたツバルは外国からの観光客誘致に力をいれていますが、日本からの訪問者数は未だ限られています。本書が同国を訪問される際の参考となり、また同国について理解を深めていただくための一助となれば幸甚に存じます。

2023年3月

国際機関 太平洋諸島センター

ツバル



正式国名	ツバル (Tuvalu)
面積	25.9平方キロメートル (小笠原諸島の父島と同じくらい)
人口	11,792人 (2020年、世界銀行)
首都	フナフティ (6.3千人)
民族	ポリネシア系(97%)、他にもポリネシア系とミクロネシア系の混血など。
主要言語	ツバル語、英語
宗教	キリスト教 (プロテスタント)
政体	立憲君主制
1人当たりGDP	5,291米ドル (2021年、世界銀行)
通貨	オーストラリア・ドル (A\$)
電話の国番号	(688) + (相手先の番号)

目次

1. ツバルの概要2
2. 旅行者のためのアドバイス9
3. 首都フナフティ11
4. 離島15
5. 関係先リスト17

ツバルの概要

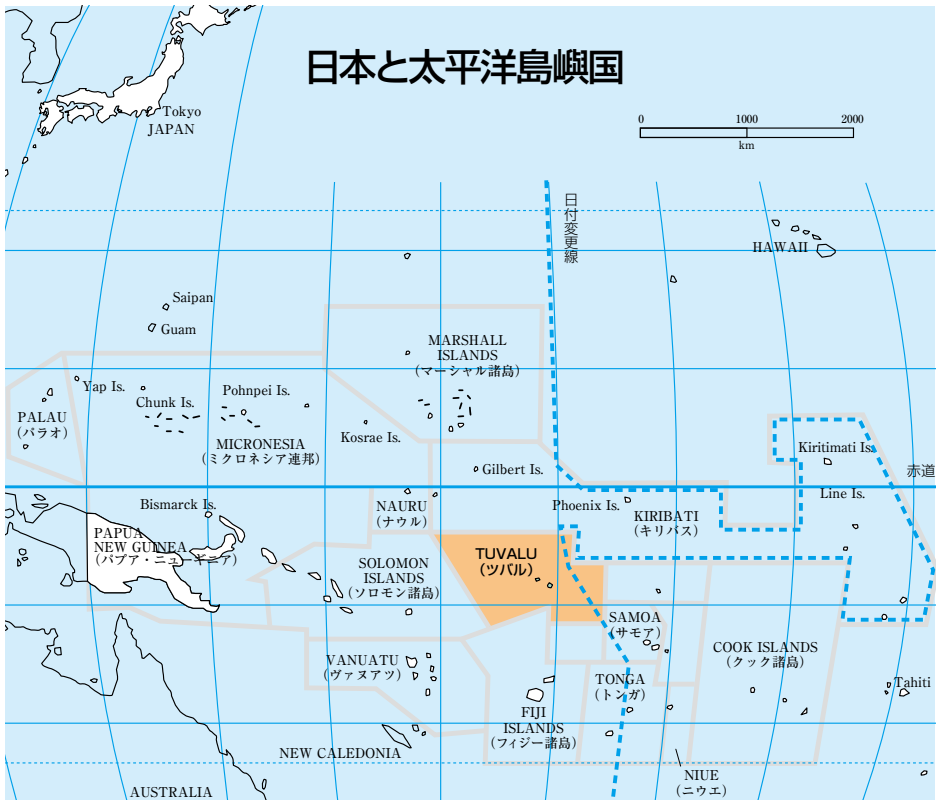
地理

ツバルは、9つの島からなるポリネシア最西端の国で、首都のあるフナフティ環礁は、赤道の南約950km、フィジーの北約1,000kmに位置している。北西から南東に676kmにわたり飛び石のように斜めに連なっている島はすべて低い島であり、最も高い場所でも海拔5mほどしかなく、ツバルの人々は気候変動に起因する海面上昇を深刻な問題として捉えている。「海面上昇に沈む島」としてツバルを知る日本人は



少なくない。

ツバルの面積は25.9km²、人口は11,792人。人口密度は1km²あたり約455人（2020年）と、日本の338人



(2022年) を大きく上回る。ポリネシアで最も小さい国であり、そして最も人口密度の高い国である。

ツバルとは8つの伝統という意味であり、昔からの居住者がいなかった最南端のニウラキタ島を除いて、8つの島の伝統があると考えられている。8つの島は、北からナヌメア

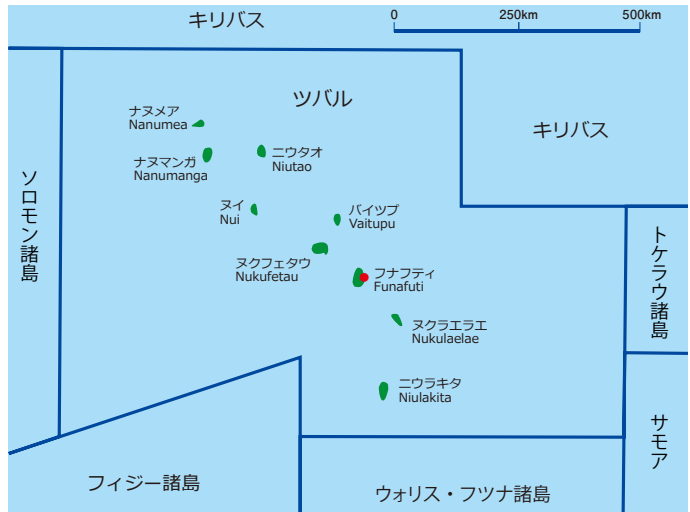
環礁、ナヌマンガ島、ニウタオ島、ヌイ環礁、バイツブ島、ヌクフェタウ環礁、フナフティ環礁、ヌクラエラエ環礁である。ニウラキタ島には、1949年にニウタオ島の人々が恒常的に移住し始めた。

人口

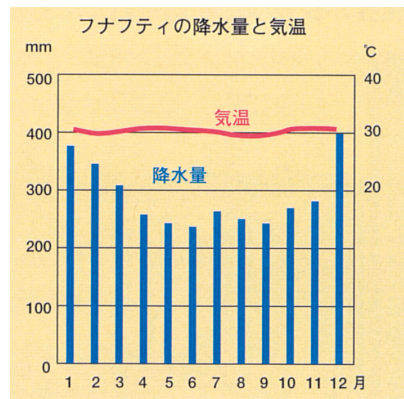
ツバルの人口は、11,792人(2020年、世界銀行)で、その約53%の6,300人ほどが首都フナフティ環礁に居住している。

気候

ツバルの気候は熱帯の海洋性で、気温は1年を通じて25~30℃で変化に乏しい。降水量は北より南が多く、北の島々では年平均2,900mm、南の島々では年平均は3,400mmほどである。11月から4月の間は雨季で北西の風が強い曇りがちな天気となる。5月から10月の間は乾季で、南



東からの穏やかな貿易風が吹き、晴れの日が多い。ただし、降水量は年間を通して多く、最も少ない月でも平均200mm程度、最も多い月では平均350mmほどである。



歴史

●先史時代

ツバルに人が住み始めたのは今から約2,000年前であるといわれている。ツバ



ル人の祖先是サモアあるいはトンガから移住してきたポリネシア系の人々である。それに加えて、キリバスからミクロネシア系の人々も移住してきたと考えられる。かつて、人々は土地を共有するいくつかの集団ごとに暮らしていたなど、島それぞれに独自の慣習が存在していた。

●ヨーロッパとの接触

1568年にスペイン人探検家メンダーニャによってヌイ島が、1595年にはニウラキタ島が発見された。以降、1781年にスペイン人探検家モーレルがニウタオ島（ナヌマンガ島という説もある）及びナヌメア環礁を発見するまではヨーロッパ人との接触は記録されていない。1819年から25年までの間に、ヨーロッパ人船長によりフナフティ環礁、ヌクフェタウ環礁、ニウラキタ島（再発見）、ヌクラエラエ環礁、ナヌマンガ島、ニウタオ島、ヌイ島（再発見）、バイツブ島が次々と発見される。1850年から75年までの間に、ペルー、タヒチ、ハワイなどへ労働力として人々が強制的に連行され、島の人口が激減した。1819年、アメリカ人商人デ・パイスター

が現在のフナフティ環礁を船の所有者の名前にちなんでエリス島と命名し、その後、9つの島全体がエリス諸島と呼ばれることになった。1865年にキリスト教がサモア人宣教師によってもたらされた。

●植民地時代

1892年、エリス諸島として北隣のギルバート諸島（現キリバス共和国）と共に英国の保護領となった。1916年にギルバート・エリス諸島植民地として英国の植民地となった。

●太平洋戦争

ギルバート諸島を占領した旧日本軍を攻撃するために、1942年、米軍はフナフティ環礁、ヌクフェタウ環礁及びナヌメア環礁に滑走路を含む米軍基地を建設した。フナフティ環礁の住民はそれまで居住していたフォンガファレ州島からフナファラ州島等に疎開した。旧日本軍の爆撃によって、フナフティ環礁の教会が破壊され、ツバル人男性が一人心なくなった。

●独立への道

戦後、英国政府はギルバート・エリス諸島の植民地行政政府をギルバート諸島タラワ



環礁（現在のキリバスの首都）に移設した。1967年には議会がタラワ環礁に設置された。しかし、この議会は圧倒的にギルバート諸島民（キリバス人）が優勢であったため、1974年の住民投票の結果を受けて、1975年にエリス諸島は文化・社会・言語的に異なるギルバート諸島と分離して英国植民地ツバルとなった。1978年、独立を達成した。

政治

ツバルは英国王を元首とする立憲君主制国家であり、英連邦に加盟する。元首は英国王であり、ツバルでは総督が元首の権限を代行する。首相が議会の承認を経た後に英国王に助言を行い、それに基づいて英国王が総督を任命する。

議会は定数15名の一院制で、ナヌメア、ナヌマンガ、ニウタオ、ヌイ、バイツブ、ヌクフェタウ、フナフティ各島より各2名、ヌクラエラエより1名の計15名が選出される。議員の任期は4年。議会の召集は首相の助言により総督が行う。国内に政党はなく、首相は議会において議員の中から選出される。内閣は首相が主宰する。

ツバルは、平和愛好国とのみ国交を持つとの方針を有しており、英連邦諸国、援助供与国、太平洋諸国等との関係が強い。在外公館としてはフィジーとニュージーランドに高等弁務官事務所、台湾、ベルギー、アラブ首長国連邦に大使館、ニューヨークに国連代表部がある。93年6月にWHOに、

2000年9月に国連に加盟した。警察官は約100名で、軍隊は存在しない。

経済

ツバルは、資源に乏しく、国家財政の収入源は、入漁料と外国船への出稼ぎ船員等による本国送金、ツバル信託基金（ツバル、英、豪、NZの拠出により87年に設立）の運用益からの引き出し等あったが、99年より米国のインターネット関連会社に貸与したドメイン・コード「tv」の使用権の契約料収入がある。同国には限られた資源しかないため、これらの収入をいかに運用していくかが今後の課題である。

産業

ツバルの主な産業は農業及び漁業であるが、自給自足的な側面が大きい。GDP(5700万豪ドル)に占める割合は10.7%となっている。他方で、行政サービスの占める割合が最も多く18.7%となっており、建設業12%、貿易10.9%と続き、商業ホテル・レストラン業は2.3%に過ぎない(2017年、ツバル統計資料)。





政府は国内の需要に見合う生産を行うために、物とサービスの向上を奨励するとともに、国内の産業を活性化するために外国からの投資を期待している。

輸出品としては切手の販売、民芸品などがあるが、輸出額はわずかである。輸入品は鉱物、金属、輸送機器、食料品、機械、衣類などと多岐にわたる。輸入に依存しなければならぬこの国にとって、貿易収支は恒常的に大幅な赤字（輸出40万豪ドル、輸入4286万6000豪ドル）となっている（2021年、ツバル政府統計局）。

ツバルの農業は小規模農家によって自給自足的に営まれており、主要農産物はココナツ、タロイモ等のイモ類、バナナ等の果実及び豚鶏等であるが、市場で販売される以外にも、親族やコミュニティなどに贈与される場合も多い。輸出品としてはコブラというココナツの果実を乾燥させたものがあつたが、現在ではほとんどつくられていない。ツバルの漁業は同国にとって潜在的に大きな可能性を有する分野である。現在のところは自給自足的な漁業が中心であるが、政府は日本やUNDP、ADBの援助

等により管理技術、マーケティング、インフラ等の問題点を少しずつ解決しながら漁業開発に力を注いでいる。現在、日本、韓国、台湾、中国及び米（多国協定）などと漁業協定を有しており、それに基づく入漁料収入は同国財政にとって重要な収入源となっている。海運としては日本政府ODA（無償資金協力）により2002年にマヌ・フォラウ号（580トン）と2015年にニヴァンガ3が供与され、首都と離島間の貨客船として運航されている。

1993年、台湾の援助によりフナフティ環礁に国営ホテル（バイアクランギホテル）が建設された。2016年からはツバル国民準備基金（Tuvalu National Provident Fund）が経営者となり、フナフティ・ラグーン・ホテルに名称変更されている。20室の客室、カウンターとダンスフロアがある。



日本との関係

歴史的に日本との交流は少ないが、第二次世界大戦中、フナフティ環礁などは旧日本軍により爆撃を受けている。1978年

10月の独立と同時に、日本政府は国家承認を行い、その後79年4月に外交関係を樹立した。1986年、日本はツバルとの間に日・ツバル漁業協定を締結しており、入漁料を支払ってツバルの経済水域において漁船の操業が行われている。両国の貿易関係は極めて小さいが、そのほとんどが日本からツバルへの輸出となっている。日本からツバルへの輸出額は、2020年までは20億円程度であったが、2021年には46億円に急増した。輸出の大部分が、輸送機器である。ツバルから日本への輸入額は2018年には2億5000万円程度であったが、2021年には1500万円程度まで落ち込んでいる。輸入のほとんどはキハダマグロなどの魚介類である。他の太平洋島嶼国と同様、先進国として日本からの援助に期待しており、対日感情は良好である。

特産品

ツバルの特産品としては、マグロ等の魚介類に加え、切手やハンディクラフトがある。ツバルは切手の販売に力を入れており、



日本では珍しいツバルの切手

外貨獲得源のひとつとなっている。そのため、切手の種類は豊富である。(なお、印刷は国際入札により行われている。)

2009年から2010年まで輸出用のナマコが採取されていたが、死亡事故などもあり、現在は行われていない。

社会と自然

●人口密度

民族としてはポリネシア系が96%で、残りはポリネシア系とマイクロネシア系の混血などである。人口11,792人のうち、首都のフナフティ環礁に全体の約53%が住み、残りが他の8つの島に居住している。ツバルの人口密度は1km²当たり約455人と高いが、フナフティ環礁の人口密度にいたっては1km²当たり約2,250人と極めて高い。国内での雇用機会の多くは公務員(給与所得者の約半分)で、若者の多くがNZまたは外国船員として出稼ぎに行く。なお、出稼ぎ労働者からの送金が主な外貨獲得源の一つになっている。

●教育

各島に公立小学校(計9校)とフナフティ環礁に私立の小学校(1校)があり、全ての児童生徒が8年間の小学校教育を受けている。バイツブ島に公立の全寮制中等学校がある他、1991年にフナフティ環礁にも私立の高等学校が開校し、中等学校に進学した生徒は4年間学習する。その他、79年にフナフティ環礁のアマトック州島に海員学校(学生数60名)が豪州の援助に

より建設された。中高等学校終了後、高等教育を受けようとするものは主としてフィジーの南太平洋大学等に留学するほか、同大学のツバル・キャンパスでも330名程度が通信教育を受けている。なお初等教育ではツバル語及び英語にて授業が行われるが、中高等学校以上では英語のみとなる。



●宗教

ツバル人の86%はプロテスタント系で会衆派の流れを汲むツバル・キリスト教会（EKT）に属しており、残りは他のキリスト教の諸宗派ならびにバハイ教などとなっている。

●植物相と動物相

ツバルは低い島であり、ココヤシやバナダナスの他、バナナ、タロイモ、パンノキな

どが栽培されているが、種類は限られている。一方、海の生き物は多様であり、マグロやカツオ、トビウオなどが食べられる。また、イルカやマンタなども見ることができる。

●祝祭日

1月1日	元日
3月の第二月曜日	英連邦の日
3月／4月	聖金曜日 復活の月曜日
5月の第二日曜日の翌月曜日	ゴスペルディ
6月上旬	君主誕生記念日
8月上旬	子供の日
10月1日	ツバルの日
12月25日	クリスマス
12月26日	ボクシングデイ

コ・ラ・ム

国旗について

独立以来、英連邦の一員であることを示すユニオンジャックを旗の左上に配し、更にツバルを構成する九つの島を示す九つの星をデザインした国旗を使用していた。1995年10月よりラタシ政権下でユニオン・ジャックを取り除いた新国旗が採用されたものの、97年3月にラタシ首相の後を継いだパエニウ首相は同年4月に元の国旗に戻した。

旅行者のためのアドバイス

パスポートとビザ

パスポートは、入国時に6ヶ月以上の有効期間が必要となる。ビザは、原則として入国時に30日間の滞在許可が与えられる。入国時には、出国の航空券の提示を求められる。

出国税

出国時に30豪ドルの出国税が必要。

時差

ツバルは世界標準時のプラス12時間で、日本との時差はプラス3時間となる。日本が正午の時、ツバルは午後3時。

通貨と両替

通貨はオーストラリア・ドルが公式通貨。ツバル政府は独自のコインのみ発行している。クレジットカードは一切使用できないので、現金を持参する必要がある。国

立ツバル銀行で両替可能。銀行の営業時間は、月～木 10:00～14:00、金 9:00～13:00。クレジットカードからの現金化はできないので注意。

服装と持参したいもの

○服装はカジュアル

服装はカジュアルでよく、1年を通じて男性は半袖シャツとズボン、女性はブラウスにスカート、あるいはワンピースが一般的。

○傘

雨が降っても現地の人々は傘をささないことも多いが、旅行者は傘や雨具を用意したほうがよい。

○履物

靴以外にビーチサンダルやカジュアルなサンダルを持参するとよい。ビーチサンダルは現地でも購入できる。

○懐中電灯

懐中電灯を持っていると便利。

○袋

ジッパーの付いたプラスチックの小袋が役立つ。濡れたものを入れておいたり、カメラやフィルムなど濡らしたくないものを入れておくことができる。エコバックを一つ持参すると買い物に便利。





○医薬品と化粧品

医薬品と化粧品は入手できる種類が限られているので、日頃医薬品や化粧品、コンタクトレンズの液などは持参すること。日焼け止めは必ず持参すること。

電 気

電気は220～230ボルト、50ヘルツで、差込プラグはオーストラリアと同じ形。

健康を守るために

食べ物や飲み物に注意を払うのは、健康のための第一歩である。そして、旅行中の病気でもっとも多いのが腹痛である。

医薬品の入手は簡単ではないので、自分にあつた応急用の医薬品を持参することが望まれる。

○水道水

旅行者は馴れないこともあり、また、疲れもあるので、生水は避けたほうがよい。ミ

ネラルウォーター等を飲むか、水を沸騰させて飲料水にする時は沸騰してからなお5分程度沸かし続けるようにする。脱水症を避けるために、飲料水は努めて摂取するようにし、外出する時には必ず水を持参すること。

○日焼けと熱射病

日差しが強いため、馴れていないと簡単に軽い火傷のような状態になってしまう。戸外

では日中は必ず帽子をかぶり、長時間にわたって肌を太陽光の下に露出させないようにしたい。最も太陽の光が強いのは午前10時から午後2時である。

脱水症あるいは塩分の欠如が熱中症を起こす原因で、暑さに馴れるまでは水分と塩分を十分にとること。

ビジネス時間

一般的には、月～金曜日の午前9時から午後4時となっている。



首都フナフティ

ツバルの首都フナフティ環礁の土地面積は2.8km²で、人口は約6,300人である。フナフティ環礁の中心は、フォンガファレ州島のヴァイイク (Vaiaku) 地区で、ここに政府関係機関から銀行、空港などの主要な都市機能が集中している。フォンガファレ州島はこの環礁で最大の州島であり、縦12km、幅は数十メートルから数百メートルで、南北に帯のように細長い。島の東側は太平洋で西側は巨大な礁湖を抱えている。礁湖は南北に24km、東西に18kmにもなり、西側の一部は海洋資源の保護区に指定されている。

一般情報

ツバルへの旅行者はほとんどがフナフティ環礁の中心部に滞在する。

●アクセス

日本からツバルに行くには、フィジーのスバ (ナウソリ空港) 経由で行くのが一般的である。フィジー・エアウェイズ (Fiji Airways) が、68人乗りのプロペラ機を用いて、フィジーのスバ (ナウソリ空港) とフナフティの間を火曜日と木曜日、土曜日の週3便定期便を運行している。



●観光案内所

観光案内所はないため、観光に関する情報は、Tourism Office, Ministry of Transport, Energy and Tourism (TEL: 20804) あるいは宿泊予定のホテルやゲストハウスに問い合わせること。

●郵便と電話サービス

両サービスとも空港ターミナルの近くにある。日本への郵便は、葉書が60セント、封書が80セントで、2週間から1ヶ月ほどかかる。郵便局の営業時間は、月～金 8:00～16:00 (12:30～13:30 昼休み) である。また、切手局 (Tuvalu Philatelic Bureau) が空港ターミナルの400mほど南にある。ツバルの切手は外貨の獲得にも貢献するほど人気がある。

●インターネット

フナフティ環礁の中心部ではwi-fiサービスが利用できる。売店などで暗証番号が



書かれたカードを購入する。離島でもwi-fiが利用できるが、速度は遅く極めて不安定である。

●メディア

国営のラジオ局 (Radio Tuvalu) が1局あり、英語とツバル語で放送している。かつては、ツバル語の新聞が二週に一度発行されていたが、現在はない。2019年よりテレビ放送 (Tuvalu.tv) が始まり、海外からもFacebookを通して視聴できる。

●飲料水

日常的には雨水を貯めたものを飲用しているが、旅行者はミネラルウォーターか、煮沸した水を飲用するようにしたい。

●警察と医療サービス

警察 (TEL: 20726) は、フナフティ・ラグーン・ホテルの道を隔てて向かい側にある。病院は、ツバル唯一の病院プリン

セス・マーガレット・ホスピタル (TEL: 20749) がタウンの北の外れにある。但し、医療設備は十分ではなく、薬の提供にも限界があるので、重症患者はフィジーまで移送する。

●タクシーとバス

タクシーに関する最新情報は宿泊するホテルやゲストハウスに問い合わせるという。バスは午前7時から午後9時までフナフティ環礁の中心部を走っている。

●レンタバイク

フォンガファレ島は、その北端から南端までわずか12kmの小さな島であるので、レンタバイクで十分に移動可能である。

レンタバイクの店 (Asival Motor Bike Hire) がバイアク地区の北にある。

Asivai Motor Bike Hire Fakaifou, Funafuti, Tuvalu

TEL : 20053

レンタバイクに関する最新情報は宿泊するホテルやゲストハウスに問い合わせるといい。



アクティビティー

観光資源は未開発であるが、宿泊するホ

テルやゲストハウスにボート等の手配を依頼することはできる。

●フナフティ海洋保護区 (Funafuti Conservation Area)

フナフティ環礁の西側にある海洋資源の保護エリアで広さは33km²、テプカ・ビリビリ (Tepuka Vilivili)、ファロパ (Fualopa)、ファファトゥ (Fuafatu)、ヴァサファ (Vasafua)、ファケア (Fuakea)、テファラ (Tefala) の6つの州島が含まれる。シュノーケル等によりサンゴ礁やカラフルな熱帯魚が楽しめる。

保護区事務所 (コンタクト先は下記のとおり) に、ボート等の手配を依頼できる。
コンタクト先: 保護区事務所 Conservation Area Office
Funafuti Kaupule, Funafuti, Tuvalu
TEL : 20664, 20423
Email : fca@tuvalu.tv
ボート (6人乗り) 借上料: 半日100豪ドル

●フナファラ州島 (Funafala Islet)

フナフティ環礁の南端にある州島で、バイクからボートで1時間。美しい砂浜があり日帰りのシュノーケル等に適している。

ホテル・ゲストハウス

ホテルはフナフティ・ラグーン・ホテルの1軒のみであり、その他にゲストハウスが複数ある。

ゲストハウスによってはシャワールーム

が共用であったり、エアコンがない等、設備が十分ではない点もあるが、比較的安価に泊まれる。

フナフティ・ラグーン・ホテル

Funafuti Lagoon Hotel (Tel: 20500)
Email: funafutilagoonhotel@gmail.com
<https://www.funafutilagoonhotel.tv>

タウンの中心、空港ターミナルから北西にわずか100m。空港からホテルまでは歩いて行けるが、荷物はホテルがピックアップ・トラックで運んでくれる。1993年に台湾の援助で建てられたツバル唯一のホテル。

部屋数は16室。全室エアコン付き。60人収容可能な会議室あり。

シングル 115~130豪ドル

ダブル 130~160豪ドル。

(支払いは現金のみ。)

レストランは、朝食:7:00~9:00、

昼食:11:30~14:00

夕食19:00~21:00

飲み物は、バーで購入できる。



フィラモナ・ロッジ

Filamona Lodge (Tel: 20833)
Email: the.filamonalodge@yahoo.com

空港ターミナルのすぐ南に位置している。エアコン付き5室、エアコンなし1室。

エスファム・ロッジ

Esfam Lodge (Tel: 20910)
Email: epenitusi@gmail.com
https://www.esfamlodge.com

空港ターミナルの北東150mに位置している。全9室。

アフエリタ B&B

Afelita B&B (Tel: 20592)
Email: litappita@gmail.com

空港から北東に約1km。全5室。

アフエリタ・アイランド・リゾート

Afelita Island Resort
Email: litappita@gmail.com
https://www.facebook.com/AfelitaIslandResort/

フナフティ環礁の北の州島（ムリテファラ）に位置する。首都にいなから、離島気分が味わえる。要予約。

L's Lodge

Tel: 7002133
Email: lslodge.tv@gmail.com

空港から北東に800m。全8室。

Luta's B&B

Tel: 20794
Email: saeiopu@gmail.com

タウンの北のはずれ。病院よりさらに北に行ったところにある。全8室。

レストラン・バー

旅行者が利用できるレストランは少ない。空港の北約1km、フナフティの役場（kaupule）の隣にある複合施設（Te Ulukaio Tuvalu）の2階の3T'sで中国料理を堪能できる。フナフティ・ラグーン・

ホテル、フィラモナ・ロッジでも食事を取ることができるほか、バーも併設されている。

マタンガリ・バー（Matagali Bar）では、日曜日以外はほぼ毎日ディスコが行われている（入場料：2豪ドル（飲み物は別））。



土産品

ツバルの土産品としては、バンダナスの繊維でできたマット、ココナツの繊維でできたウチワ、貝細工の首飾り、カヌーの模型等がある。空港ターミナルの隣にあるハンディクラフト・センター（Tuvalu Women's Handicraft Centre）で購入できる。また、切手収集家であれば、ツバルの切手は種類も豊富で珍しい。空港の南西約400mにあるツバル切手局（Tuvalu Philatelic Bureau）で購入できる。



ツバルの切手

離 島

ツバルの離島には美しいサンゴ礁があり、将来的にはダイビング等の観光開発が有望であるが、未開発の状態である。

公共交通としては飛行機がなく、3~4週間毎にフナフティ環礁から出航する船便を利用する必要があるが、便数が少ないことから、時間が十分にある旅行者の利用に限られる。なお、フナフティ環礁とヌクフェタウ環礁を除いてはリーフが浅く、貨客船が島に横付けできないので、小舟に乗り移ることになる。

離島でのフィッシング等をグループで計画するのであれば、フィッシング・ボートをチャーターすることもできる。料金は1日1,000ドル程度であるが、シーズンによる変更やボートの空き等もあり、予約時に確認を要する。(Fisheries Department of Funafuti. Tel: 20344)

宿泊施設は、ゲストハウスか民宿であるので、各島の役場 (Kaupule) に照会する必要がある。ツバルの9つの島を北から順番に列挙すると次の通り。

ナヌメア環礁

ツバルの最北端にある島で、ナヌメアとラケナの2つの州島（両州島は5km離れている）で構成されている。教会の塔が立っている。

土地面積：3.9km²、人口：約510人。

(Kaupule : Tel : 26000)

ナヌマンガ島

米粒のような形をしたサンゴ島。村落はトンガ (Toga) とトケラウ (Tokelau) の二つに分かれる。

土地面積：2.8km²、人口：約490人。

(Kaupule : Tel : 33005)

ニウタオ島

楕円形をしたサンゴ島。村落はクリア (Kulia) とテアヴァ (Teava) の二つに分かれる。

土地面積：2.6km²、人口：約580人。

(Kaupule : Tel : 28005)



ヌイ環礁

南北6kmにわたって20ほどの州島が連なるが、人々は南にあるフェヌアタブ州島に住んでいる。ヌイ島の人々の祖先にはサモアから来たポリネシア系に加えて、ギルバート諸島から来たミクロネシア系もいる。現在、ヌイ島の人々はツバル語に加えて、キリバス語を話す。

土地面積：2.9km²、人口：約610人。
(Kaupule : Tel : 23005)

バイツツ島

ツバルで最も大きい島で、1998年に日本の援助でツバル唯一の公立中高等学校の新校舎が建設された。

土地面積：5.6km²、人口：約1061人。
(Kaupule : Tel : 23005)

ヌクフェタウ環礁

フナフティ環礁に最も近い(フナフティの北西約100kmにある)島で、第二次世

界大戦中に米軍がモトゥラロ州島に基地を建設した。

土地面積：3km²、人口：約600人。
(Kaupule : Tel : 36005)

フナフティ環礁

首都のある環礁で、詳細は上述のとおり。

ヌクラエラエ環礁

ヌクラエラエとは、「砂の土地」という意味で、相長い島には白砂のビーチが伸びている。

土地面積：1.9km²、人口：約300人。
(Kaupule : Tel : 35005)

ニウラキタ島

ツバル最南端のこの島は元々無人島であったが、1949年にニウタオ島の人々が移住してきた。

土地面積：0.5km²、人口：約30人。
(Kaupule : Tel : 21022)



関係先リスト

大使館・総領事館

- 在東京ツバル名誉総領事館
〒160-0023 東京都新宿区西新宿 6-16-6 タツミビル5階
大日本土木株式会社 海外支店内
Tel : 03-6857-7253
- 在ツバル日本国大使館（在フィジー日本国大使館が兼職）
Embassy of Japan
Level 2, BSP Life Centre, Thomson Street, Suva, Fiji
(G.P.O. Box 13045)
Tel : (+679) 3304633 Fax : (+679) 3302984

貿易・投資コンタクト先

- Business Center - Investment and Industries Division,
Ministry of Finance, Economic Development
Private Mail Bag, Vaiaku, Funafuti, Tuvalu
Tel : 20408
Email : minfin@gov.tv

観光コンタクト先

- Tourism Office
Ministry of Transport, Energy and Tourism
Private Mail Bag, Vaiaku, Funafuti, Tuvalu
Tel : 20840
Email : info@timelesstuvalu.com

編集協力および写真提供をいただいた方（敬称略）

Special Thanks to

- 東京経済大学 小林誠
- South Pacific Tourism Organisation

PICの著作物に関しては、無断での複写・複製・転載はお断りしています。
さらに、転売・出品も禁止とさせていただきます。

ツバル

発行日：2023年3月
発行：国際機関 太平洋諸島センター（PIC）
〒101-0052
東京都千代田区神田小川町3-22-14
明治大学 紫紺館1階
電話：03-5259-8419
URL：<https://pic.or.jp/>

TUVALU

